私は悪くないのか？

屋下雨宿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
私は悪くないのか？

【Ｎコード】
Ｎ２５０９Ｙ

【作者名】
屋下雨宿

【あらすじ】
童話にしたかったが、内容が童話っぽくならなかったので。

二階建ての一軒家。その家で暮らしているのは、父、母、兄、妹、そして私。

父は、勤勉で仕事熱心な人間だ。大人しく地味ではあるが、立派な大黒柱である。

母は、キッチリとした人間だ。テキパキと家事をこなし、家計を切盛りしている。

兄は、やんちゃな人間だ。いつも家の中を走り回っている。

妹は、優しい人間だ。私の事を一番気遣ってくれる。

私は、そんな家族の相談役だ。どんな下らない話でも頷きながら聞いている。

ここは、そんな何処にでもありそうな二世帯住宅だった。

＊

家族の朝は早い。

父は日の昇らない内から仕事に出掛ける。それから、しばらくすると兄は学校へ行き、その後、母は妹を幼稚園に送っていく。

朝の喧騒が去ると、家には私と母だけが残される。

ほとんどの時間を私と同じ部屋で過ごしているが、あまり会話はない。

だが、その日は会話がった。

「見て見て！このお金！五十万よ！五十万！」

五十万？私は聞き返す。

「また貯めちゃった！私ってやりくり上手ね！」

異常なまでにハイテンションで話しかけてくる。

会話というか、一方的な自慢話。私に話しかけてくるときはいつもそうだ。

「タンスの下、タンスの裏、食器棚、マットの下……今度は何処に隠そうかな。何処がいい？」

「マットの下、マットの下」

私は指差しながらそう答える。

「うーん。汚れそうだけど……封筒入れとけば大丈夫かな！よし、今日はここにしよう！」

こんな会話を半年に一回はやっている。

私がここに来て数年立つが、母が貯めた金額は私にも計り知れない。

＊

それは、ある日の食卓。家族揃っての夕食時の事である。

母は家族に隠してお金を貯めている。それは悪い事だと私は考えた。

だから、私はその場で言ってやることにしたのだ。

「タンスの下、五十万。タンスの裏、五十万」

「ん？なんのことだ？」

私の声に気付いた父がキョトンとした顔で私を見る。

「な、何を言ってるのでしょうね？」

母はいぶかしい顔をしていた。

「食器棚、マットの下」

「お歌を覚えたのかな？」

妹は全く気付いていない。

しかし、兄は好奇心をそそられたのか、席を立つと私の傍までやってきた。

「タマルヨ、ヘソクリ。タマルヨ、ヘソクリ」

私の言ったことをしっかりと聞いた兄が、面白半分で宝探しを始める。

すると、次から次へとヘソクリを発見していった。父の年収を超えるかというぐらいの大金を家の中から掘り出したのだ。

その光景に父は憤怒し。母は事態を治めようとしたがうまくいかず困惑した様子だ。

やがて、二人の会話は噛み合わなくなりケンカを始める。
それを見た、妹は泣き出してしまった。

私はうまくいったと思っていた。
しかし、私の思い通りにはならなかった。

その日、家族の平穏は破壊されて、
明くる日、母は家を出て、
私は、鳥かごに入れられたままどこか遠くへ捨てられた。

ワタシハ、ワルクナイ。ワタシハ、ワルクナイ――

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2509y/

私は悪くないのか？

2011年11月16日13時20分発行